

# 日本製薬工業協会 医薬品評価委員会総会

## 今考える「Patient and Public Involvement」 ～私たちの活動は誰のため～ 医薬品評価委員会としての取り組み

---

医薬品評価委員会 委員長

中路 茂

2024年 11月 15日

# 目次

1. 製薬協 医薬品評価委員会でのPPI活動
2. 市民・患者での調査・アンケート結果とそれから見える課題
3. 規制当局の取り組み
4. 製薬協のホームページ、SNSを用いた情報公開
5. 最後に

# PPI (Patient and Public Involvement )とは

- PPIとは、「患者やその家族、市民の方々の経験や知見・想いを積極的に将来の治療やケアの研究開発、医療の運営などのために活かしていこうとする取り組み」のこと

## AMEDのPPI10か条

- 1. 患者・市民は、研究のパートナーであることを意識しましょう**
2. 研究参加者を募ったり、研究成果報告をしたりする場とは区別しましょう
- 3. 客観的に意見を言える患者・市民と協働しましょう**
4. 患者・市民参画を伴わずに研究を進める場合は、その理由を説明できるようにしましょう
5. 患者・市民参画の目的を具体的に設定しましょう
6. 患者・市民の募集要項を作成しましょう
- 7. 十分な情報提供をしましょう**
8. 快適な環境作りを心がけましょう
9. 実りある患者・市民参画のために、全員でルールを共有しましょう
- 10. 意見聴取の結果を、参画した患者・市民に伝えましょう**

革新的で有用性の高い医薬品をより早く  
患者さんや医療関係者、世界の人々にお届けする

- 非臨床研究・臨床開発・安全性監視・MA活動に関する  
技術的・科学的・政策的課題の検討ならびに提言
- 委員会間、委員会メンバー間の情報共有・問題意識の統一
- 医薬品産業についての啓発と社会からの理解の獲得

# 2024年度委員会活動方針

下記4本柱の活動により、新たな開発手法の検討と環境整備を進め、「日本の創薬力強化」を推進するとともに、世界の人の健康増進に貢献することを、医薬品評価委員会の目標とする

## 医薬品開発のイノベーション促進

- 開発手法や多様なデータの活用による医薬品開発の効率化
- 希少疾病用医薬品、小児医薬品開発促進に向けた取り組み
- 遺伝子情報を用いた新規開発への対応検討
- 新規モダリティの課題検討
  - 細胞・遺伝子治療
  - SaMD/DTxの有効活用
  - プログラム医療機器と医薬品の協働体制

## 医薬品開発の活性化

- DCTの適切な活用を推進
- 医薬品開発に関わるRisk Based Approachの取り組み促進
- DXを活用した取り組みの検討・推進
- 治験・臨床研究活性化の取り組み議論に参画・推進
- 動物試験の適切な実施の徹底、代替法開発と3Rsの実践
- 日本の開発関連情報をプロアクティブに海外に発信
- アジア地域での臨床試験環境の活性化

## レギュラトリーサイエンスの深化の促進

- ICHガイドライン作成・普及、ならびに課題解決
- 臨床研究法改正、薬機法改正に向けた議論・提案
- RWD/RWEの有効活用
- 将来のドラッグ・ロスを産まないための新規施策検討に対する意見具申
- 他団体やアカデミア、行政との積極的な連携、議論

## 環境配慮と健康増進への貢献

- 患者の声を取り入れた医薬品開発の推進
- 治験情報の共有と理解促進
- 安全対策の徹底と合理化検討・提案
- 医薬品による環境汚染への取り組み
- 医薬品・製薬企業活動の理解促進と環境に配慮した活動
- 国内の課題解決と世界への貢献

# 【製薬協】市民・患者への情報提供に関する取り組み (1/2)

組織	取り組み一覧
製薬協	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「NewsPicks」とのタイアップ企画：高齢先進国・日本は安心して「長生き」できる国なのか</li> <li>➤ 日経チャンネル：第35回製薬協政策セミナー</li> <li>➤ 読売新聞社との共催：薬剤耐性（AMR）を知ろう！動画コンテスト</li> <li>➤ 病いと生きる。希望と生きる。写真展</li> </ul>
広報委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ くすりと製薬産業に関する生活者意識調査報告書</li> </ul>
製薬協 広報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 製薬協ホームページ：注目コンテンツ、患者さん・一般の方（くすりについて）</li> <li>➤ 製薬協SNS（YouTubeとX）</li> </ul>
患者団体連携推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ PPIをもっと身近に ～明日から取り組める医療への患者・市民参画～</li> <li>➤ 臨床試験にみんなアクセスしやすい社会を創る会</li> <li>➤ 患者さん・一般の方（くすりについて）_患者さんとともに</li> <li>➤ PPI（患者・市民参画）に関する事例集</li> </ul>
産業政策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 希少疾患患者さんの困りごとに関する調査</li> <li>➤ 難病・希少疾患に関する提言</li> <li>➤ 製薬協 Rare Disease Day 2024 シンポジウム</li> </ul>

# 【製薬協】市民患者への情報提供に関する取り組み (2/2)

組織		取り組み一覧
医薬品 評価委員会	医薬品評価委員会 (全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 患者及び一般市民を対象とした治験に係る情報提供の要領</li> <li>➤ 患者さん・一般の方（くすりについて）_治験の情報</li> <li>➤ 患者及び一般市民を対象とした治験に係る情報提供の要領</li> <li>➤ HMIC2024 製薬協における患者・市民参画の取り組み紹介</li> </ul>
	臨床評価部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 医薬品評価委員会X：医療機関への来院に依存しない臨床試験（DCT）の促進</li> <li>➤ 「患者の声を活かした医薬品開発」患者・市民、製薬企業向けシンポジウム</li> <li>➤ 治験への患者参画に関するアンケート結果報告書</li> <li>➤ 「治験の探し方～jRCTのみかた～」啓発資料</li> <li>➤ 説明文書・同意文書（ICF）共通テンプレート</li> <li>➤ 患者さん・一般の方（くすりについて）_「くすり」と「治験」Q&amp;A</li> </ul>
	ファーマコビジランス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ デジタルを用いた患者さん向け情報提供に関するアンケート結果</li> <li>➤ 患者さん及びご家族の医薬品情報の入手に関する実態調査</li> </ul>
	データサイエンス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 患者・市民と製薬企業間のヘルスコミュニケーションに対する課題と原因分析</li> </ul>
	医療情報データベース 活用促進タスクフォース	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 健康医療データと私たちの生活（冊子とWeb資材）</li> <li>➤ 健康医療データの用語集</li> <li>➤ 患者さん・一般の方（くすりについて）_患者さんとともに</li> </ul>

# 目次

1. 製薬協 医薬品評価委員会でのPPI活動
2. 市民・患者での調査・アンケート結果とそれから見える課題
3. 規制当局の取り組み
4. 製薬協のホームページ、SNSを用いた情報公開
5. 最後に

## 調査・アンケート、分析

- くすりと製薬産業に関する生活者意識調査報告書

[https://www.jpma.or.jp/news\\_room/issue/survey/index.html](https://www.jpma.or.jp/news_room/issue/survey/index.html)

- 患者さん及びご家族の医薬品情報の入手に関する実態調査

[https://www.jpma.or.jp/information/evaluation/results/allotment/PV\\_202407\\_PtSurvey-1.html](https://www.jpma.or.jp/information/evaluation/results/allotment/PV_202407_PtSurvey-1.html)

- 患者・市民と製薬企業間のヘルスコミュニケーションに対する課題と原因分析

[https://www.jpma.or.jp/information/evaluation/results/allotment/DS\\_202406\\_kadai.html](https://www.jpma.or.jp/information/evaluation/results/allotment/DS_202406_kadai.html)

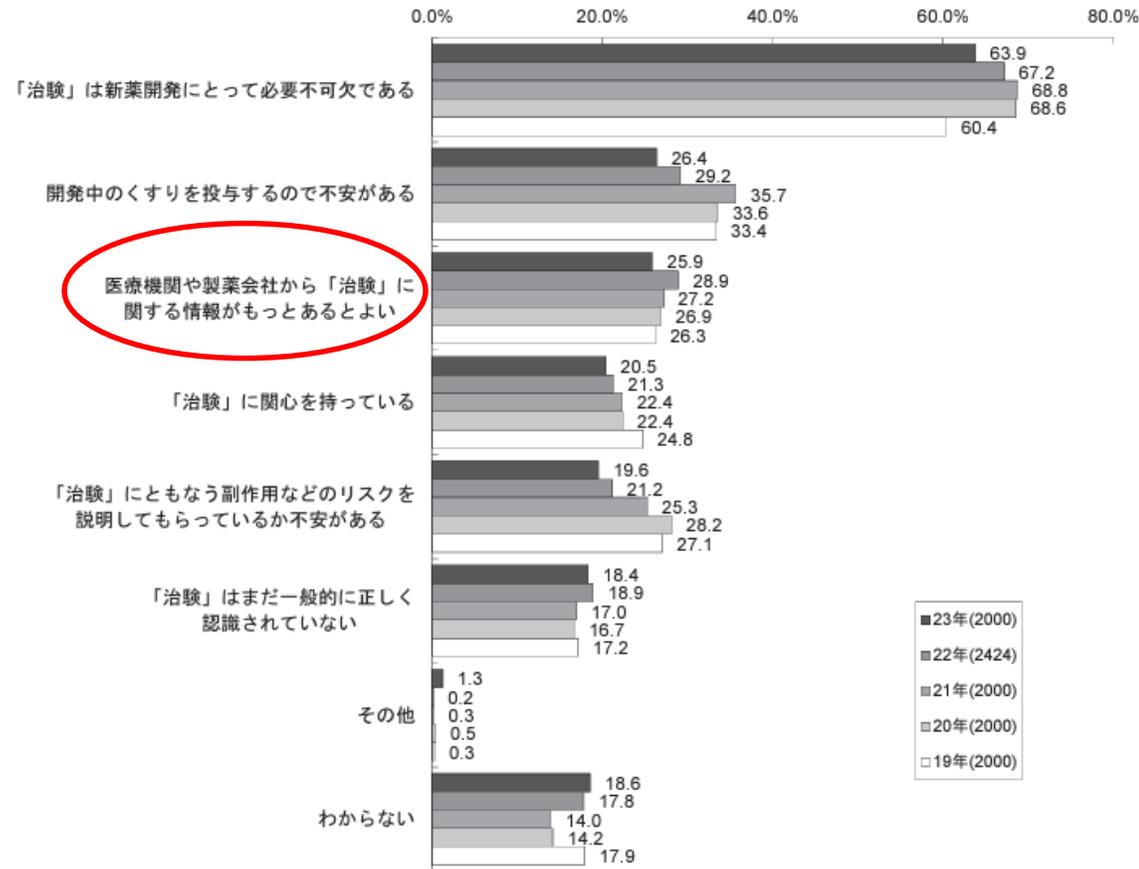
- 治験への患者参画に関するアンケート結果報告書

<https://www.jpma.or.jp/information/evaluation/results/allotment/PPIsurvey.html>

# 製薬協における市民・患者での調査・アンケート結果(1/4)

## くすりと製薬産業に関する生活者意識の調査結果

図表73. 治験に対する考え方【複数回答】



注) %値は回答者ベースで算出

■ 治験に対する考え方については、「治験は新薬開発にとって必要不可欠である」が63.9%で最も多い。次いで「開発中のくすりを投与するので不安がある」26.4%、「医療機関や製薬会社から治験に関する情報がもっとあるとよい」25.9%と続く。「治験に関心を持っている」人が20.5%いるが、「治験に伴う副作用などのリスクを説明してもらっているか不安がある」も19.6%と同水準。前回と比べてスコアは総じてやや低下しているが、各項目の順位や全体の構造に変化はない。

■ 属性別でみると（図表74参照）、性別では、治験への関心は男性の方が僅かに高いが、不安感に男女差はない。

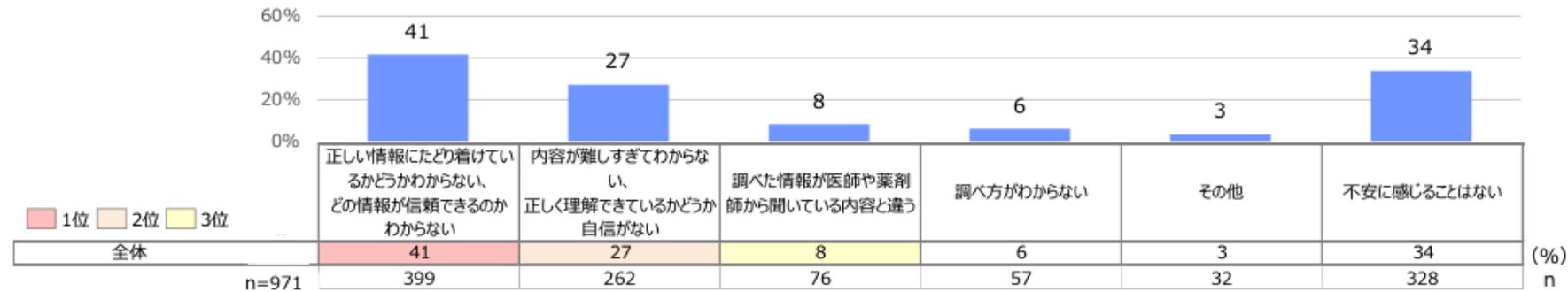
■ 年代別では、「治験は新薬開発にとって必要不可欠である」は年代が高いほど肯定率が高い。また、「医療機関や製薬会社から治験に関する情報がもっとあるとよい」「治験はまだ一般的に正しく認識されていない」「治験に伴う副作用などのリスクを説明してもらっているか不安がある」などは70代以上が目立って高い。

# 製薬協における市民・患者での調査・アンケート結果(2/4)

## 【患者さん及びご家族の医薬品情報の入手に関する実態調査】

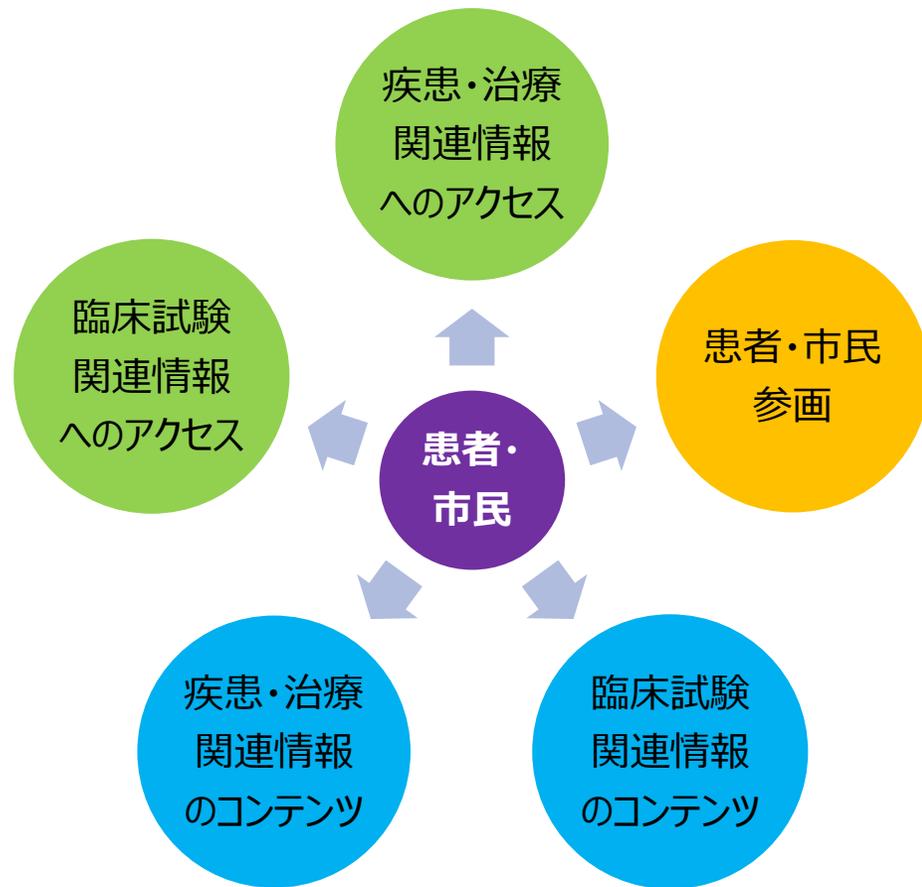
(インターネット調査、n=971、2024年2月実施)

■ 情報収集の際に不安に感じていることは、「正しい情報にたどり着けているかどうか分からない、どの情報が信頼できるかわからない」が41%で最も高く、次いで「内容が難しすぎてわからない、正しく理解できているかどうか自信がない」が続いた。



Q14. (あなたご自身)又は(現在あなたと同居中のご家族) \*が処方されている以下の疾患の治療のためのお薬について、あなたご自身で調べるとき、不安に感じることがありますか。不安に感じることがあれば、あてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも) 【該当疾患】(選択された疾患名) \* \*割付に応じて表示

## 患者・市民と製薬企業間のヘルスコミュニケーションに対する課題と原因分析



- 患者・市民向けのヘルスコミュニケーション・情報のあり方に関して、課題は多く存在し、solutionの有無を含め十分には整理されていないことがわかった。
- これらの多岐にわたる課題のうち、患者・市民と製薬企業間のヘルスコミュニケーションに関わる(1) 疾患・治療関連情報、(2) 臨床試験関連情報 及び(3) 患者・市民参画の3つに着目して、課題と原因分析を行った。



- \* **情報アクセスに関する共通の課題**として、「信頼できる情報にたどりつけない」及び「情報サイトのユーザビリティが低い」があり、その主な原因としてそれぞれ「情報を提供するサイトが認知されていない」及び「患者・市民を意識したサイトが構築されていない」が考えられた。
- \* **情報コンテンツに関する共通の課題**として、「情報量が足りない・多すぎる」及び「情報が理解しにくい」があり、その主な原因としてそれぞれ「患者・市民のニーズを十分理解できていない」及び「文章作成技術が低い」が考えられた。
- \* **患者・市民参画に関する課題**は、「患者・市民参画を知る機会・患者・市民参画の機会がない」及び「患者・市民参画後に、満足感が得られない」に大別され、その主な原因として「患者・市民参画の仕組みが整備されていない」が考えられた。

# 製薬協における市民・患者での調査・アンケート結果(4/4)

## 患者団体向け治験への患者参画に関するアンケート結果（要旨）

- ◆ 対象：患者団体（339団体に依頼し、総回答77件）
- ◆ 調査方法、調査時期：インターネット、2023年6月～7月
- ◆ アンケート結果（「患者への情報提供に関する課題」を中心に抜粋）

### 1. 患者参画活動

- 製薬企業が取り組むべき重要な点だと感じる上位3項目のうち2つは、「治験情報提供・検索のしやすさ」、「開発進捗状況の情報提供」

### 2. 治験情報の公開に関する取り組み

- 治験で知りたい上位3項目は、「治験の参加条件」、「治験薬の安全性」、「治療方法」
- jRCT/Japic CTI、製薬企業Webサイトから治験情報を得ているのは、回答者の1～2割。その主な理由は、「専門用語が難しい」こと

### 3. 治験実施計画書、説明文書・同意文書に関する意見聴取の取り組み

- 参加を希望する方の要望の多くは、治験の目的、文章や用語のわかりやすさの改善

### 4. 治験結果の提供に関する取り組み

- 分かり易い文書で治験結果を記載する取り組み（レイサマリー）の認知度は、4人に1人、レイサマリーを閲覧したことがある方は約1割

### 5. 治験啓発の取り組み

- 半数以上は、治験情報を十分に得られないと回答、企業に望む治験啓発は主に「患者さん向け小冊子」、「対面・オンライン講演会」が挙げられた。

# 市民患者 調査アンケート結果から見える課題

## ◆ 情報アクセスに関する課題

- 信頼できる情報にたどりつけない
  - 情報を提供するサイトが認知されていない
- 情報サイトのユーザビリティが低い
  - 患者・市民を意識したサイトが構築されていない
  - 治験情報の検索のしやすさが課題である

## ◆ 情報コンテンツに関する課題

- 情報量が足りない
  - 開発進捗状況を含めて、治験に関する情報をもっとあるとよい
  - 患者・市民のニーズを十分理解できていない
- 情報が理解しにくい
  - 内容が難しすぎてわからない
  - 専門用語が難しく、jRCTや製薬企業Webサイトから知りたい情報が十分に得られない

# 目次

1. 製薬協 医薬品評価委員会でのPPI活動
2. 市民・患者での調査・アンケート結果とそれから見える課題
- 3. 規制当局の取り組み**
4. 製薬協のホームページ、SNSを用いた情報公開
5. 最後に

# 規制当局の取り組み (1/3)

- 「創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議」中間とりまとめを踏まえた政策目標と工程表（令和6年7月内閣官房健康・医療戦略室）

## <3つの成果目標>

1. 「国民に最新の医薬品を速やかに届ける」
2. 「世界有数の創薬の地となる」
3. 「投資とイノベーションの循環的発展」

## <目標達成のためのプロセス>

- 各施策ごとに今後5年程度の工程表を策定
- アウトプット指標（KPI）を設定
- 進捗状況をフォローアップ
  - ・ 成果目標の評価に加え、有識者による総合評価

# 規制当局の取り組み (2/3)

## 各施策のスケジュール・工程表③

2024年夏	2024年末	2024年度末	2025年度	2026-2028年度	KPI (成果指標)
<b>国際水準の臨床試験実施体制</b>					
<b>[治験業務に従事する人材の育成支援・キャリアトラックの整備]</b>					
PM、CRC、バイオインフォマティシャン、DM、リサーチナース等の人材育成強化策の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算要求・予算編成 (臨床研究総合促進事業)</li> <li>研修プログラムの実施</li> <li>キャリアトラックの在り方の検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>研修プログラムの強化、受講対象者の拡大</li> <li>臨床研究中核病院における臨床研究支援スタッフ活用の在り方について検討</li> </ul>		年間研修プログラム修了証発行者数 1100人 (R10) 932人 (R5)
<b>[海外企業の国内治験実施の支援]</b>					
英語での治験・臨床試験実施に向けたサポート人材・マネジメント人材の育成・配置の強化 <small>再掲</small>	予算要求・予算編成 (医療技術実用化総合促進事業、ワンストップサービス窓口設置)		<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンストップサービス窓口を設置</li> <li>ワンストップサービス窓口において、海外企業に対して、国内での治験実施を誘致</li> </ul>	国際共同治験の相談件数の拡大	ワンストップ窓口への国際共同治験の相談件数 年間15件 (R10)
<b>[Single IRBの原則化、DCTの推進]</b>					
Single IRBの体制の検討	Single IRBの原則化に向けた規制の見直しの検討、Single IRBの実施状況に関する数値目標の検討		<ul style="list-style-type: none"> <li>Single IRB原則化と周知</li> <li>Single IRBの実施状況に関する数値目標の設定</li> </ul>	Single IRBの検証	Single IRB運用実績 (R7までに目標設定)
DCTの運用体制の推進	医療技術実用化総合促進事業における臨床研究中核病院のDCT体制の整備・ノウハウの展開		臨床研究中核病院の承認要件にDCT体制の整備の追加に向けた検討	新承認要件に基づく実績評価・検証	臨床研究中核病院におけるDCTを活用した治験の実施件数 15試験 (R10) 5試験 (R5)
<b>[情報公開と国民の理解促進]</b>					
国民向けの治験・臨床試験リテラシー向上に向けた情報発信、及び企業向けの情報公開の施策の検討	予算要求・予算編成 (治験等への理解・参加の促進、円滑な治験等)の実施を目的とした臨床研究データベースの整備		ユーザーフレンドリーなデータベースの実現に向けた臨床研究データベースの整備	効果の検証情報公開の推進	JRCTのアクセス数 120万件 (R10) 60万件 (R5)

# 規制当局の取り組み (3/3)

## 1-2. 国際水準の臨床試験実施体制⑤

### <施策の目的>

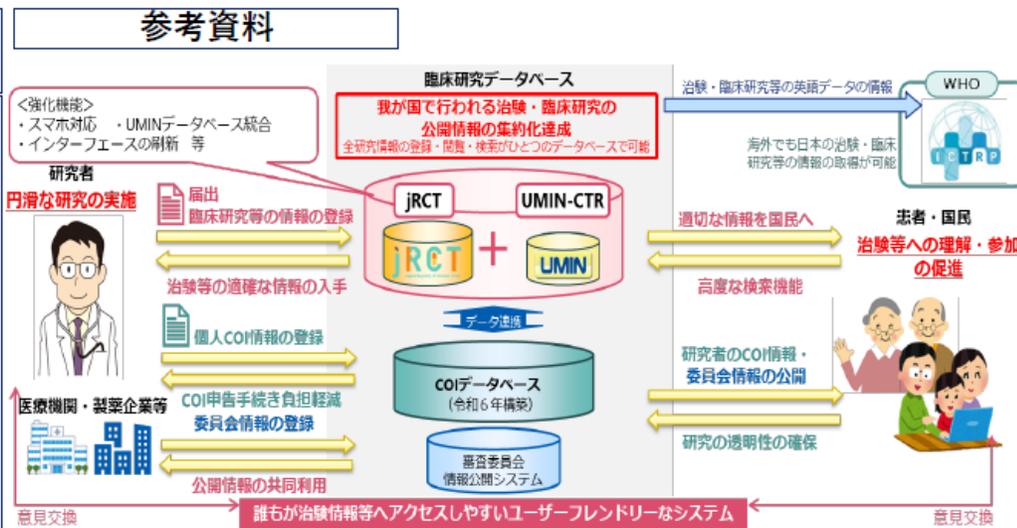
- ✓ 治験・臨床試験（治験等）情報の登録・公開はjRCT（臨床研究等提出・公開システム）において行われているが、登録や検索の機能が使いにくい等の指摘がある。
- ✓ 研究者、製薬企業及び患者団体等に意見を聞いた上で、必要な改修を行うとともに、国民向けに治験等に関する知識等の普及啓発を図る。



### <施策の内容>

**情報公開と国民の理解促進**

- ✓ 研究者、製薬企業及び患者団体等との意見交換を通して、円滑な研究の実施、治験等への理解・参加の促進を目的としたユーザーフレンドリーなデータベースを実現する。
- ✓ 令和6年度に新規構築する利益相反（COI）データベースとの連携を含めた国内で実施される治験等の公開情報の集約化を実現するなど、国内及び海外のデータベースとの連携を強化する。
- ✓ 治験等情報へのアクセス性が向上し、国民に十分な治験等情報が提供されることで国内の治験等への理解が深まることにより、更なる参加の促進につなげていく。



# 医薬品評価委員会での創薬エコシステムの取り組み

- 「日本の創薬力強化」に向けた活動
- ドラッグラグ・ロス回避の対応も包括する：薬事規制のあり方検討会議で議論された治験エコシステム、医薬品開発の効率化、治験環境の整備を目指す
  - スピード、信頼性、効率化：リスクベースのアプローチ、Central IRB、FMV、ICF 共通Template、などの観点
  - Globalに通用するデータ発信
  - 製薬協内の他委員会との連携（eg ドラッグラグ・ロスTF）
  - 外部との連携（産官学の議論、患者の声、外部産業団体との意見交換）

### 創薬エコシステムを支える基盤における課題

製薬協

- 創薬基盤は創薬力の要、国がリードし、一貫した整備・強化を！
- 国内の基盤と海外の各機能を相互に利用

#### 新規モダリティ製造

- 国内のバイオ製造設備が未整備
- 製薬企業、CDMOともに人材が不足

#### 治験環境

- 新規モダリティに対応可能な治験施設が限定的
- 国際共同治験を呼び込めない
- 治験プロセスが非効率

#### 健康・医療データ活用

- 医療データが散逸して存在
- 創薬等への二次利用が未整備
- 患者同意に偏重した入口規制

30

### ここまでのまとめ

製薬協

日本の創薬力強化

好循環

イノベーションの適切な評価

- 日本に適した創薬エコシステムを産業界も中心になって構築し、世界と繋がる
- エコシステムの基盤部分は創薬力の要、国の強力なリードに期待
- ヒト・モノ・カネの観点で改めて考え直し、それらが繋がり、効果を発揮できる仕組みづくりをめざす

- 2024年度制度改革は一定のイノベーション評価が実現
- 行政との連携強化により、ドラッグラグ・ロスの効果検証を進める
- 新規モダリティなど新薬の革新性に適した薬価制度の構築をめざす

好循環により日本の創薬力強化とドラッグラグ・ロス解消を実現し、革新的新薬を患者さんへ届け続ける

33

# 目次

1. 製薬協 医薬品評価委員会でのPPI活動
2. 市民・患者での調査・アンケート結果とそれから見える課題
3. 規制当局の取り組み
4. 製薬協のホームページ、SNSを用いた情報公開
5. 最後に

# 製薬協のホームページ、SNSを用いた情報公開（1/5）

## 製薬協ホームページ：注目コンテンツ

医薬品に関する情報をはじめ、製薬業界の取り組み、患者向け情報、トピックス、ニュースやイベント等を掲載



## 製薬協ホームページ：一般の方向けおくすりガイド

くすりに関する基礎知識とQ&A、創薬と育薬、くすりの相談窓口やお役立ち情報（医療用医薬品、疾患情報や患者団体のリンク）等を掲載

### 一般の方向けおくすりガイド

身の回りのくすりについての広範な情報、くすり開発の過程、会員各社のくすり相談窓口などをご紹介します。

- くすりの情報Q&A**  
くすりを正しく使うために「くすりの情報Q&A」を掲載しています。
- くすりの種類**  
普段はあまり意識しない、身の回りに溢れるあるくすりの種類をご紹介します。
- 創薬と育薬**  
基礎研究から販売まで、長い道のりとなるくすりの開発過程をご説明しています。
- くすりを学ぼう**  
一般の方、小中学生のみなさまに向けて、くすりに関して役立つ情報を掲載しています。
- くすり相談窓口のポリシー**  
くすり相談窓口共通の「理念」「行動憲章」「役割・使命」と取り組みを掲載しています。
- くすり相談窓口の活動**  
くすり相談窓口の活動をQ&A形式で紹介しています。
- 会員会社くすり相談窓口**  
会員会社の一覧からご確認ください。
- お役立ち：疾患**  
患者さんおよびご家族の皆さんの参考となるような疾患情報へのリンクを掲載しています。
- お役立ち：くすり**  
患者さんおよびご家族の皆さんの参考となるような医療用医薬品（処方せん薬）に関する情報へのリンクを掲載しています。
- お役立ち：患者団体**  
患者さんおよびご家族の皆さんの参考となるように、複数の団体が所属している団体のリンクを掲載しています。

## 製薬協ホームページ（医薬品評価委員会）：治験の情報

### 治験の情報

治験を知るための情報や、現在実施されている治験を検索できるサイトなどを掲載しています。

#### 治験について

治験に関する情報について、一般の方、患者さんおよびご家族の皆様への資料を掲載しています。

#### 治験を探す

現在実施中の治験の概要や、終了した治験の結果を調べることができるウェブサイトを紹介しています。

#### 企業の治験情報サイト

製薬協医薬品評価委員会加盟会社が提供している治験情報をご覧ください。

- jRCT(国内の登録サイト)
- 臨床試験情報(一般財団法人日本医薬情報センター/JAPIC)
- 臨床研究登録情報検索ポータルサイト
- ClinicalTrials.gov(米国の登録サイト)
- 企業の治験情報サイト

#### 企業の治験情報サイト

製薬協医薬品評価委員会加盟各社の治験情報サイトをご覧ください。(各社の治験情報サイトに直接リンクしています)  
※現在加盟各社では該当ページを整備中であり、今後順次掲載予定。

すべての会社一覧 | あ行 | か行 | さ行 | た行 | な行 | は行 | ま行 | や行 | ら行 | わ行

#### あ行

- 旭化成ファーマ株式会社
- アステラス製薬株式会社
- アヅヴィ合同会社
- あゆみ製薬株式会社
- EAファーマ株式会社
- MSD株式会社
- 大塚製薬株式会社
- 小野薬品工業株式会社
- あすか製薬株式会社
- アストラゼネカ株式会社
- アムジェン株式会社
- アルフレッサファーマ株式会社
- ヴィアトリス製薬合同会社
- エーザイ株式会社
- 株式会社大塚製薬工場

# 製薬協のホームページ、SNSを用いた情報公開（4/5）

## 製薬協SNS

YouTube：製薬業界の取り組み、くすりの啓発、新薬の研究開発やイベント等の情報提供



X：製薬業界の最新の活動、プレスリリース、ニュースやイベント告知等をタイムリーに情報発信



## 製薬協SNS（医薬品評価部会）

- 医療機関への来院に依存しない臨床試験（DCT）の促進
- 社会認知度向上を目指して、Xを活用した製薬協の成果物公開



<https://x.com/iyakuhinhyouka>



# 目次

1. 製薬協 医薬品評価委員会でのPPI活動
2. 市民・患者での調査・アンケート結果とそれから見える課題
3. 規制当局の取り組み
4. 製薬協のホームページ、SNSを用いた情報公開
5. 最後に

- ◆ 製薬協では、患者や市民に向けて正確で丁寧かつ容易にアクセスできる治験・医療情報の提供を拡充することで、医薬品や治験等に関する国民のリテラシー向上を図ってきている。
- ◆ これまでの市民患者を対象に行ってきたアンケート調査結果より、情報のアクセスとコンテンツに関する主な課題があり、今後も継続して患者、市民の声に耳を傾け、対話することで、より簡易にアクセスできて適切で分かり易い情報を提供し、患者自身が適切に疾患、医薬品、治療法を理解できる環境を目指していく。
- ◆ また、国をあげて取り組むべき創薬力強化、ドラッグラグロス解消の取り組みも重要となっている。市民患者に治験を身近に感じて参加しやすくなることで、治験の患者組み入れが促進され、現在日本で生じているドラッグラグロス解消の一助となることを期待している。



カプセル君

製薬協 医薬品評価委員会

@iyakuhinhyouka

フォローする